

カエル神社プロジェクト宣言

水はすべての命を支えている根源的な環境資源です。日本は「資源のない国」などと言われますが、実は、世界でも類を見ないほど水資源に恵まれています。

しかし、この豊かな水資源も、人間の営みによって汚染され、圧迫され続けています。水環境が種の存続を決める代表的な生き物にカエルがいます。カエルが棲めなくなる土地で、人間だけが繁栄を築けるとは思えません。特にこれからの時代は、残された貴重な自然の恵みを生かしながら、持続性のある文化と幸福感を作りだすことがなによりも大切だと考えます。

私たちがその心構えを忘れないための第一歩として、名もない小さな湖沼、池を、開発行為やゴミの不法投棄などから守るために「カエル神社プロジェクト」を提案いたします。

カエル神社プロジェクトとは

目的：

身近にある天然の池、水たまり、沼などが、人々の無関心、不注意によってつぶされたり、水が涸れることのないよう、そこを「カエルの住处」として尊重し、積極的に保全する（生態系保全）。

同時に、住民、特に子供たちに、カエルへの興味と愛情を通して、本当の環境問題とは何かについて考えるきっかけとしてもらう（環境教育、ふるさと意識の助長）。

実践内容と目標：

- ・ 普段、あまり人々の目が向かないような、名もない水たまりや沼地を見つけてリストアップし、そこを「カエル神社候補地」として検討する。
- ・ 候補地の地主と相談の上、了解・賛同を得られれば、カエル神社として認定。その際、必要に応じて、最小限度の整備（水の供給、涸渇の防止、目印として小さな祠などの設置）を施す。
- ・ カエル神社は少しずつ増やしていき、「蛙神社一番札所 杜蒼（モリアオ）神社」などと命名して整理し、将来はカエル神社札所巡りツアーができるくらいに徐々に増やしていく。
- ・ 地域の小中学生と連携し、自分の家のそばにあるカエル神社の「宮司」を当番制などで担当してもらい、ゴミの不法投棄や水の涸渇などを監視し、カエルの生態日記をつけてもらうなどする。将来、その子供たちが大人になってから帰ってきたふるさとで、後輩たちが立派に「カエル神社宮司」を引き継いでいるのを見ることで、ふるさと意識はさらに深まるはず。
- ・ 個人宅敷地内にある小さな池なども、積極的にカエルの住处として棲みやすくすることで、「個人版（番外）カエル神社」も増やしていけるよう、「カエル教育」を広める。

参考：東北地方のカエル事情

東北地方には10種類の日本固有種のカエルが生息している（外来種のウシガエルを入れれば11種）。

アズマヒキガエル、トウキョウダルマガエル、モリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアカガエル、ヤマアカガエル、タゴガエル、カジカガエル、ツチガエル、ニホンアマガエルの10種。（阿武隈カエル図鑑は <http://abukuma.us/frogs/>）

このうち、数が少なくなっていると思われるのが、タゴガエル、カジカガエル、ツチガエル。生息エリアが偏在しているのがトウキョウダルマガエルとモリアオガエル。それぞれのカエルの生態を知ることが、カエルの環境を守る上で大切。